

プログラム

特別講演

特別講演

2023年 12月 6日 12:45 ~ 13:45

座長：奈良岡 準（アステラス製薬株式会社/筑波大学）

『AI 技術の先に見るイノベーションのあり方』

演者： 矢倉 大夢（筑波大学大学院）

特別シンポジウム

特別シンポジウム

2023年12月5日 10:00～11:30

『AMED ペプチド班研究報告：非天然型化学合成ペプチドに関する非臨床安全性評価ガイドライン（案）』

座長： 斎藤 嘉朗（国立医薬品食品衛生研究所）

福井 英夫（Axcelead Drug Discovery Partners, Inc）

- 特 - 1： 非天然型構造を有する化学合成ペプチド医薬品の非臨床安全性評価に関するガイドライン案について
○斎藤 嘉朗、出水 庸介（国立医薬品食品衛生研究所）
- 特 - 2： 非天然型化学合成ペプチド医薬品の遺伝毒性評価について
○杉山 圭一（国立医薬品食品衛生研究所 安全性生物試験研究センター 変異遺伝部）
- 特 - 3： 企業視点からみた非天然型化学合成ペプチド医薬品の非臨床安全性評価について
○福井 英夫（Axcelead Drug Discovery Partners, Inc., Applied Regulatory Science）
- 特 - 4： 規制からみた非天然型化学合成ペプチド医薬品の非臨床安全性評価の考え方
○真木 一茂（独立行政法人 医薬品医療機器総合機構）

総合討論

シンポジウム

シンポジウム 1

2023年 12月 5日

13 : 30 ~ 15 : 30

『生体イメージングの現状と課題』

座長：横田 理（国立医薬品食品衛生研究所）

上総 勝之（アステラス製薬株式会社）

S1 - 1 : 自動化トランススケールスコープが拓く生命科学研究の新たな地平

○永井 健治（大阪大学産業科学研究所、大阪大学先導的学際研究機構）

S1 - 2 : 磁気共鳴画像法（MRI）を用いた非侵襲的評価による雄性生殖毒性評価の省力化と発生毒性リスクの予測

○横田 理（国立医薬品食品衛生研究所 安全性生物試験研究センター・毒性部）

S1 - 3 : ミクロ組織を踏まえた高解像度かつ高深度空間トランスクリプトーム技術

○本田 瑞季（京都大学大学院医学研究科）

S1 - 4 : Whole brain distribution of antisense oligonucleotide using light sheet microscopy and tissue clearing technique and its future perspective for the toxicological evaluation

○中山 美有（武田薬品工業株式会社）

シンポジウム 2

2023年 12月 6日

9 : 30 ~ 11 : 30

『New Approach Methodologiesの現状と課題』

座長：足利 太可雄（国立医薬品食品衛生研究所）

合田 圭佑（アステラス製薬株式会社）

S2 - 1 : 毒性機序研究とNAMs開発の接点 - 免疫毒性を中心に -

○足利 太可雄（国立医薬品食品衛生研究所 安全性予測評価部）

S2 - 2 : ゼブラフィッシュを用いた核酸医薬品の急性神経毒性の定量的ポテンシャル評価

○角谷 友美（住友ファーマ株式会社）

S2 - 3 : 薬物毒性・動態研究のための小腸組織チップの開発

○出口 清香、高山 和雄（京都大学iPS細胞研究所）

S2 - 4 : 医薬品開発におけるQuantitative systems pharmacology (QSP) modelの活用の現状と毒性機序研究への展望

○年本 広太（アステラス製薬株式会社 開発研究 非臨床バイオメディカルサイエンスシステムズ薬理研究室）

『中枢・循環毒性における研究最前線』

座長：宮本 憲優（エーザイ株式会社）

白川 誉史（アステラス製薬株式会社）

- S3-1： アントラサイクリン系抗がん剤心毒性におけるフェロトーシス
～フェロトーシスに関する病態生理、誘導機序、予防戦略と臨床開発～
○池田 昌隆、井手 友美（九州大学）
- S3-2： ヒトiPS分化細胞のアクチンフィラメント崩壊に基づく抗がん剤毒性の評価
○早乙女 俊樹¹、遠山 由貴¹、安田 好美¹、島田 直樹¹、澤田 光平^{1,2}
(¹日本毛織株式会社 研究開発センター、²一般社団法人日本薬理評価機構)
- S3-3： 実験動物を用いたアディクションの評価
○井手 聡一郎、池田 和隆（公益財団法人東京都医学総合研究所 依存性物質プロジェクト）
- S3-4： 神経磁界計測装置を用いた脊髄・末梢神経の電気活動の可視化とその臨床応用
○佐藤 慎司¹、足立 善昭²、川端 茂徳³
(¹株式会社リコー メディカルイメージング事業センター、
²金沢工業大学 先端電子技術応用研究所、
³東京医科歯科大学大学院 先端技術医療応用学講座)
-

ポスター発表プログラム

*若手優秀発表賞応募演題

- P-1* : アリルアセタミドデアセチラーゼは肝臓内鉄濃度を低下させることで薬物誘導性フェロトキシシスに対して保護作用を示す
○篠原 颯志¹、深見 達基^{1,2}、内嶋 聖允¹、廣澤 啓也¹、長岡 茉唯¹、中野 正隆^{1,2}、中島 美紀^{1,2}
(¹金沢大学大学院 医薬保健学総合研究科 薬物代謝安全性学研究室、²金沢大学ナノ生命科学研究所)
- P-2* : 抱合型胆汁酸量の増加が抗菌薬誘発性の肝障害発症に関わる
○平井 智也¹、住江 翔太郎¹、竹村 晃典³、早崎 洸太郎²、伊藤 晃成³
(¹千葉大学薬学部 生物薬剤学研究室、²千葉大学大学院医学薬学府 生物薬剤学研究室、³千葉大学大学院薬学研究院 生物薬剤学研究室)
- P-3 : アルコール体からアルデヒド体への酸化反応におけるADH、P450およびAKRの関与
佐藤 怜¹、下村 和也¹、○深見 達基^{1,2}、中野 正隆^{1,2}、樋口 裕一郎³、上原 正太郎³、米田 直央³、末水 洋志³、中島 美紀^{1,2}
(¹金沢大学大学院 医薬保健学総合研究科 薬物代謝安全性学研究室、²金沢大学ナノ生命科学研究所、³公益財団法人実験動物中央研究所)
- P-4* : 医薬品曝露による口唇口蓋裂発症に対するマイクロRNAの関与
○吉岡 弘毅¹、月星 陽介¹、堀田 英音¹、横田 理²、三上 友理恵³、緒方 謙一^{1,3}
(¹岐阜医療科学大学薬学部 薬理学分野、²国立医薬品食品衛生研究所 安全性生物試験研究センター毒性部、³九州大学病院)
- P-5 : シスプラチンによる腎障害に対する時計遺伝子発現変化の影響
○吉岡 弘毅¹、富永 サラ²、横田 理³、前田 徹²、三浦 伸彦⁴
(¹岐阜医療科学大学薬学部 薬理学分野、²金城学院大学薬学部、³国立医薬品食品衛生研究所 安全性生物試験研究センター毒性部、⁴横浜薬科大学薬学部 健康薬学科環境科学研究室)
- P-6* : ラット近位尿管上皮細胞におけるオクラトキシンA曝露に関連した*in vitro* および*in vivo* 小核形成の誘導と染色体不安定性関連遺伝子の発現プロファイリング
○小澤 俊介^{1,2}、尾城 椋太^{1,2}、唐 倩^{1,2}、鄒 昕羽^{1,2}、吉田 敏則^{1,2}、渋谷 淳^{1,2}
(¹東京農工大学 獣医病理学研究室、²東京農工大学大学院 共同獣医学専攻)

- P-7* : Study on developmental exposure effect of imidacloprid on postnatal neurogenesis in the hippocampus in rat offspring
 ○Xinyu ZOU^{1,2}, Qian TANG^{1,2}, Ryota OJIRO^{1,2}, Shunsuke OZAWA^{1,2}, Momoka SHOBUDANI¹, Yuri SAKAMAKI¹, Yuri EBIZUKA¹, Toshinori YOSHIDA^{1,2}, Makoto SHIBUTANI^{1,2}
 (¹Laboratory of Veterinary Pathology, Tokyo University of Agriculture and Technology, ²Cooperative Division of Veterinary Sciences, Graduate School of Agriculture, Tokyo University of Agriculture and Technology)
- P-8* : HLA-B*58:01を介したオキシプリノールによる特異体質性副作用発症メカニズムの探索
 ○光山 菜々美、中村 良太、柴田 侑裕、頭金 正博
 (名古屋市立大学院 薬学研究科 医薬品安全性評価学分野)
- P-9* : アデノ随伴ウイルスによる補体活性化メカニズムと種差の検討
 ○川崎 秀吉、佐々木 大祐、松村 匠悟、上総 勝之
 (アステラス製薬株式会社 開発研究部門 非臨床バイオメディカルサイエンス)
- P-10* : MEAシステムによる瘻癩化合物および殺虫剤の神経毒性評価と作用機序推定
 ○石橋 勇人、永福 菜美、鈴木 郁郎
 (東北工業大学 工学部 電気電子工学科)
- P-11 : マウス内耳由来不死化細胞株 HEI-OC1 細胞を用いた聴覚毒性アッセイ系の構築
 ○浅野 雄哉¹、小黒 裕嗣²、安田 秋太²、岩井 祥人²、濱中 さえこ¹、長瀬 孝彦¹、古屋優里子²、山本 恵司²
 (¹株式会社日本バイオリサーチセンター、²オリエンタル酵母工業株式会社 長浜生物科学研究所)
- P-12 : マウス内耳由来不死化細胞株 HEI-OC1 細胞を用いたシスプラチン毒性機序の検討
 ○小黒 裕嗣¹、浅野 雄哉²、安田 秋太¹、岩井 祥人¹、濱中 さえこ²、長瀬 孝彦²、古屋優里子¹、山本 恵司¹
 (¹オリエンタル酵母工業株式会社 長浜生物科学研究所、²株式会社日本バイオリサーチセンター)
- P-13 : 蛋白質の細胞内局在情報を活用したシグナル伝達系分析手法の開発
 野口 誉之¹、加納 ふみ²、○米谷 信彦³、岩本 智沙子³、山崎 聖子⁴、大坪 洋介⁴、中津 大貴²、國重 莉奈^{1,2}、村田 昌之^{1,2,*}
 (¹東京大学 大学院総合文化研究科 広域科学専攻 生命環境科学系、²東京工業大学 科学技術創成研究院 細胞制御工学研究センター、³株式会社ニコン ヘルスケア事業部、⁴株式会社ニコン 先進技術開発本部)

- P-14 : Neural responses of compounds by Field Potential Imaging with high spatiotemporal resolution
○Naoki Matsuda, Nami Nagafuku, Han Xiaobo, Yuto Ishibashi, Ikuro Suzuki
(Department of Electronics, Graduate School of Engineering, Tohoku Institute of Technology)
- P-15 : 医薬品承認審査のAI進化と製薬企業とCROに求められる対応
Advancement of AI Drug Review Process and Required Manufacturer and CRO Responses
○ Takayuki.Anzai 1, 2, Reto Aerni 2, Kenshi Nakagawa 1, Hijiri Iwata 3, Dai NAKAE 4, 5
(¹Showa University School of Medicine 昭和大学医学部、²Instem、
³LunaPath Laboratory of Toxicologic Pathology ルナパス毒性病理研究所、
⁴Global SEND Alliance (G-SEND)、⁵Teikyo Heisei University 帝京平成大学)
- P-16 : International Consortium on the Mystery of Reactive Oxygen Species (ROS) to Harmonize the Key
Events on ROS in Adverse Outcome Pathway Framework
○Shihori Tanabe
(Division of Risk Assessment, Center for Biological Safety and Research, National Institute of
Health Sciences)